

科 目 名

建築設計製図Ⅵ

Architectural Planning and Design Ⅵ

3年 後期 2単位 選択

内 丸 恵 一

概 要

本科目では、大学外の実際の地域を想定し、地域住民と関わりながら、その地域を魅力ある場所にするための計画を提案し、建築（または建築的な）設計をおこなう。これまでの建築設計製図では、条件を与えられてそれに対応する建築物の設計を行ったが、本科目では、実際の地域の中で、場所の可能性と建築的条件をみずから見出すところから始まる。またこれまでは学生個人による設計であったが、本講ではグループで計画する。これらすべてのことが、社会への対応力を育て、卒業設計への重要な準備段階となる。

学習目標

- ① 学生自身による計画の立案・遂行能力の養成。
- ② 実社会における問題発見と提案能力の養成。
- ③ グループでの計画立案作業による対話と協議によるプロジェクト推進能力の養成。
- ④ 地域での発表をおこなうことによるプレゼンテーション能力の養成。
- ⑤ 地域住民や学生相互の対話を準じてのコミュニケーション能力の養成。

授業計画

テ ー マ	内 容
I. 現地を視察する・場所の個性を発見する	まちづくりに関する講義、前年度までの成果紹介、 現地を歩く、個人ごとの場所の特性の発表
II. 現地を知る・歴史的背景や現状の調査	調査方法の講義、学生自身による調査、 個人ごとの調査内容の発表 地域住民による講義・質疑応答
III. 現場の問題点と可能性をさぐる	問題点と可能性に関する個人ごとの発表。その後、 2～3人のグルーピング。
IV. 計画の方針・骨格を考える	計画の方針に関するグループの担当教員との協議、 これを数度繰り返して、グループごとの中間発表会。 (中間発表会では計画系教員全員の参加)
V. 計画の内容と細部をつめる	グループ担当教員との協議、これを数度繰り返して、 計画の細部に関するグループ発表会。 (計画の細部は、個人ごとの計画とする)
VI. 発表会	学内発表会 (計画系教員全員の参加による) 学外発表会 (地域住民への公開発表)

授業方法

学生自身による調査と計画案の策定。それをもとに担当教員と個別にディスカッションし、数回の発表会を行う。

評価方法

最終的な計画提案の内容、発表会でのプレゼンテーション、課題を通じての学生の伸び、これらを含めて総合的に評価する。

教科書・教材

教科書：なし

参 考 書

学生の提案内容により個別に教示する。

履修上の注意

教員との個別の協議と発表会には絶対に欠席しないことが前提である。この科目では、学生各自が意欲的かつ積極的に取り組むことが、特に求められる。